



TITLE:

静脩 Vol. 40 No. 1 (2003.5) [全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 40 No. 1 (2003.5) [全文]. 静脩 2003, 40(1)

ISSUE DATE:

2003-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66046>

RIGHT:



## これからの附属図書館      新たな時代を迎えて

附属図書館長      佐々木   丞 平

京都大学附属図書館が明治32年に創設されてから今年で104年になる。その間、本館を利用したと考えられる学生数は恐らく20万人を上回るであろう。特に近年では、年間の在校生数、つまり利用者数約2万人に対し、その利用頻度による延べ入館者数は実に70万人以上という急激な増加を見せている。創設当時の利用延べ人数に換算すれば正に膨大な数字となる。

その時代の様々な社会変化を大学も受け、学問の領域も拡大し、蔵書の内容も、その範囲も創設当時とは比べものにならないほど増加している。又、図書館の担う役割も大きく変化してきている。明治、大正、昭和と、図書館は蔵書を利用して知識を深める場としての役割を担っていたが、平成に入って図書館におけるインターネット利用システムの設置という、20年前には想像できなかった現状が展開している。時代の変化のスピードが速まると共に、図書館もそれに対応すべく動いてきた。電子ジャーナルやデータベースを利用しやすくするために、京都大学全体としてなるべく一元化する方向での調整役を続けているのもその一つである。京都大学が、学習研究のためのインフラの整備をより

一層充実させるためにも、関係者、各関係機関の更なるご協力をお願いしたい。

京都大学附属図書館においては、時代に即応することと同時に、現在



は電子媒体が重要な役割を担っているが、それがはたして今後もうまく機能し続けるのか、次なる時代変化がどのようなものであっても、基本的な部分では常に対応できるように配慮しておかなくてはならない。現代ではスピードを重視した研究方法が主体であるが、未来において、仮に電子媒体に混乱を来したとしたら、あるいは、スピードよりも時間をかけた深さを求める時代が来たとしたら、過去の時代のように、書物の行間から何かをつかみとる、あるいは目的の知識を得るためにさまざまな書籍に当たり、遠回りした分、広い視野と深い思索の時が持るといった、書物を主体とした研究形態が戻ってくることも考えられる。時代的变化を考えれ

ば、時代に即応することと同時に、基本的な部分を守り、長期的な視野をも大切にしなければならない。

来年はいよいよ国立大学も法人化元年を迎えることになる。大学自体も様々な変化を余儀なくされている今日ではあるが、大学附属図書館としての役割の内、何時の時代においても変わることなく守り続けられていることは、それは学生達が自ら学び研究するための、勉強と思考の場としての環境である。講義という教育の場に対し、学生の自主性を育み、各自の自由意志において真摯に知識を深める場は、まさに大学という機関の一つのシンボルであると思う。

京都大学においても教養部が存在しなくなった今日では、入学の時点から利用する学習図書館としての役割も担い、また一方では大学院生、研究員、教官の研究の場としての研究図書館として、ベースになる基本図書の設置と、さらに

専門的研究機能も保持し、近年盛んになってきた、従来の学問の領域を越える、横断的、学際的研究支援にも対応できることを目指している。

様々な新しい学問分野の確立に伴って、複数の学部にもたがう研究領域が広がり、それぞれの学部が不自由なく研究書を利用できる環境も大切になってくる。こうした、時代的な学術分野の変化の中で、各部局の専門書を主体とする図書室と連携し、それぞれの部局の独立性、独自性を守りながら、部局間、学問分野間の交流の促進と発展を支えることを目的として、京大附属図書館はあくまでも大学という総合組織の中で「各部局が共有できる独立した機関」として機能し続けることをより明確化していきたい。

今後益々のご協力をお願いする次第である。

(ささき じょうへい)

## 平成15年度企画展「和算」

平成15年度附属図書館公開企画展（展示会改め）は、「和算について（仮）」で準備を進めている。既に、この企画展でご指導と助言をいただきます京都大学理学研究科・理学部上野健爾教授から、「和算とは」と題して企画展ワーキング・メンバーに教授していただいた。

附属図書館は、昭和27年に佐藤則義氏から、和算関係の蔵書の寄贈を受けた。寄贈を受けた直後の同6月に、2代目附属図書館内にあった陳列室で企画展が開催されている。この時、佐藤家からの寄贈書と附属図書館所蔵本50点余りを展示、講演室で理学部数学教室小堀憲先生が「和算について」を、人文科学研究所蔵内先生が「中国数学の和算に及ぼせる影響」を講演されたとの記録がある。（『京都大学附属図書館60年史』）

今回は、百万遍にある「思文閣美術館」を会場に、今秋1ヶ月間開催する。江戸時代のミリオンセラーであった『塵劫記』（じんこうき）は、日本人の数処理能力の向上に大きく貢献したとされている。明治時代になって、学校で教える数学は西洋数学となったが、西洋数学の受容がスムーズに進んだのは、『塵劫記』で培われた数処理能力の結果とみられている。なお、『塵劫記』の著者・吉田光由（1598～1672）は、京都に縁が深い角倉一族であったし、佐藤家寄贈の資料には、和算から洋算への移行がはっきりわかる資料もある。

「数学は苦手」という人が多いが、上野教授をはじめ企画展ワーキング・メンバーは、「わかりやすく」を念頭に準備を進めている。

# 新しくなった清家文庫

京都大学人文科学研究所 助手 古 勝 隆 一

## 1. 清家文庫成立・拡充の経緯

清家文庫は、本学附属図書館の豊かな特殊文庫の中にあっても、ひとときわ輝かしいコレクションであるといえよう。中世以来、大学者を輩出してきた清原家、彼らの知の営為が、さながらこの文庫に収められているのである。優れた学者が蒐集した書物は、それだけでも興味を引く。ましてや、一人ならず二人ならず、数十人もの学者たちが抄写し、集め、伝えてきた書物群である。

この文庫に収まっている書物をかつて伝承したのは、清原家である。略して清家という。清原家は中国古典を伝承した明経博士家の一であるが、広澄(934-1009)以降、頼業(1122-1189)、良賢(1348-1432)、業忠(1409-1467)と歴代の名だたる学者を出し、室町後期の宣賢(1475-1550)がこの家学を大成した。その後、清原宣賢の玄孫にあたる秀賢(1575-1614)の時に、舟橋家を称し、その子の秀相が舟橋家を嗣ぎ、もう一人の子、賢忠が別に伏原家を立てた。近世以後は、この二つの家によって清原家の学問が伝えられた。なお舟橋家、伏原家の人物は、しばしば清原氏を自称しているため、江戸時代になっても清原家の人間としての自覚は続いたものと思われる。

清原家ゆかりの書物が本学に帰した由来は、次の通りである。昭和26年12月5日、当時の舟橋家当主、清賢氏が、1627冊、2舗、1巻、文書13枚を本学に寄贈され、その後さらに数次に及び本学は同家より書籍を購入し、また寄贈を受けた。これを主体とする清原家伝来の書物を、本学では「清家文庫」と名づけた。

ただ清原家の書物は門外不出であったわけではなく、近世以後、舟橋、伏原の両家から流出したものも多い。それゆえ、本学附属図書館の

清家由来典籍は確かに豊富ではあるが、それが清家の学問的営為のすべてを示しているわけではない。本学でも明治40年頃、いくつかの清家本を市場にて求めている。これらの多くは若林春和堂という古書肆より購入されたものであり、すべて伏原家に伝来した本らしい。

これらの書物は、従来からむろん貴重書として附属図書館で取り扱われてきたものであるが、2001年にリストアップされ、しかるべき手続きを経て、新たに清家文庫の貴重書として加えられることとなった。

つまり清原家の蔵書は近世初期以来、舟橋、伏原の二家に分かれて伝えられたが、本文庫は、舟橋家伝来本を基礎として、伏原家の伝来本をも併せる運びとなったのである。

## 2. 「天師明経儒」印について

一冊の書物の来歴を考える際に、蔵書印や奥書などがたいへん重要な手がかりとなる。目録その他の書物に明らかな著録がある場合を除けば、その書籍の来歴はそれ自体によってしか知ることができない。舟橋家に伝えられて、戦後まもなく本学の所蔵するところとなった書籍には、多くの蔵書印が押されている。それとは別に、上述のごとく本学が書肆から購入した一部の書物にも、清家の旧蔵を示唆する蔵書印が押されていた。私が確認し得た限りで、それらを列挙しよう。「伏原」(長方形、白文)、「伏原」(方形、朱文、単郭)、「伏原」(方形、朱文、重郭)、「伏原蔵書」(長方形、白文)、「天師明経儒」(長方形、白文)、「天師明／経儒」(橢円形、朱文)、「清原」(円形、朱文)、「清原」(方形、朱文)、「清原」(方形、白文)、「清／原氏」(方形、白文)、「天師明経儒」(長方形、朱文)、「天師明経儒」(長方形、朱文)、「明経」(橢円

形、朱文)「宣通ノ之印」(方形、朱文)「宣ノ條」(方形、朱文)「宣條ノ之章」(方形、朱文)「宣光ノ之印」(方形、白文)「宣ノ光」(方形、朱文)などである。

このうち特徴的なのは、「天師明経儒」(「天皇の師たる明経儒者」の意)印が四種も存在することである。舟橋家からの寄贈・購入による書籍に押された印記のうちにも「天師明経儒」印一種が確認できるが、それとは異なるものである。都合、五種の「天師明経儒」印がある。

〔甲種〕「天師明経儒」(長方形、朱文。5.2糎×1.3糎)

『塵芥』(清家文庫4-85/シ/1貴)、『古文孝経』(清家文庫1-66/コ/10貴)などの多数の書籍に見える。これらは旧来の清家文庫の貴重書である。下に紹介する31『毛詩』にも見えるが、これは舟橋家旧蔵本が伏原家に入ったものらしい。

〔乙種〕「天師明経儒」(長方形、白文。5.6糎×2.1糎。伏原宣通所用印か)

34『古文孝経』、『大学』(清家文庫1-66、タ5貴)。『大学』は他の印より見て、伏原家旧蔵のものが舟橋家に入ったものらしい。

〔丙種〕「天師明経儒」(楕円形、朱文。長径2.9糎。伏原宣條・宣光所用印か)

01『周易』、07『尚書』、09『尚書抄』、10『毛詩抄』、14『春秋経伝集解』、22『論語義疏』、24『孟子抄』

〔丁種〕「天師明経儒」(長方形、朱文。4.5糎×1.8糎。伏原宣光所用印か)

04『易抄』、08『尚書抄』

〔戊種〕「天師明経儒」(長方形、朱文。4.8糎×1.1糎。伏原宣光所用印か)

16『大学』、18『中庸』、19,20『論語』、37『中庸』

以上、「天師明経儒」印が複数存在することはあまり知られていないことであると考え、その別を記し、伏原家蔵書の参考として供したい。



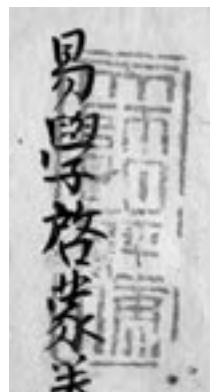
甲



乙



丙



丁



戊

「天師明経儒」印五種



### 3. 新しく加えられた書籍

以下、清家文庫に新しく加えられた書籍を列記する。印と識語等は、なるべく記載する。

#### 写本

- 01 『易経』(『周易』) 王弼注〔国賢〕写 2冊  
存6巻(巻1-6) 清家文庫1-62/工/6貴 98066  
8行14字 注双行 四周单边有界  
印「宣條」、「宣光之印」、「天師明経儒」(丙)  
備考 下に見える02『周易』の僚巻。
- 02 『周易』 慶長6年、〔国賢〕写 4冊 存4巻(巻7-10) 清家文庫1-62/シ/8貴 98065  
8行14字 注双行 四周单边有界  
第三冊奥書「慶長六〔辛丑〕年潤十一月三日  
写之 / 此巻吉田ニテ半分西岡勝龍ニテ / 半分  
書立ル也」。
- 03 『易経啓蒙通釈』(『易学啓蒙通釈抄』)  
〔業賢〕写 1冊 87678 清家文庫1-62/工/8貴  
和文17行内外
- 04 『易抄』(『百衲襖』) 桃源瑞仙(亦庵) 撰 文  
明年間、桃源瑞仙写 23 冊 98063 清家文庫1-  
62/工/7貴  
和文・漢文14行  
印「伏原」(白文)、「宣光之印」、「天師明経  
儒」(丁)
- 05 『易抄』 〔国賢〕写 2軸、2巻 107453 清家  
文庫1-81/工/1貴別  
第1軸巻首に「侍従三位(花押) / 賢忠卿秘書  
易抄 / 他覧完無用也」と墨書。  
印「当」(円形、黒文)
- 06 『百衲襖』 文明年間、桃源瑞仙(亦庵) 写 2  
冊 存2巻(巻7,8) 107455 清家文庫1-62/ヒ/2  
貴  
和文・漢文14-16行  
第7巻本文中に「文明乙未三月廿三日 亦庵  
志」(桃源瑞仙) 第1冊・2冊の後表紙に「這  
百衲襖多紛失 / 而七八漸二冊存」(桃源瑞仙)  
と墨書。



- 07 『尚書』 孔安国伝 永正11年、宣賢写 2冊 存2  
巻(巻7,10) 清家文庫1-63/シ/5貴 別  
86774  
7行14字 注双行 四周单边有界  
巻7奥書「本云嘉応三年三月十五日校摺本了  
在判〔直講近業御判〕 / 永正十一年三月十四  
日以唐本書写之即加朱墨訖 / 少納言清原朝臣  
(花押) / 建長三年七月廿六日以家秘説奉授  
丞相尊閣畢 博士清原仲宣 / 以右奥書本校正  
之加點無相違者也 宣賢(花押)」(宣賢)。巻  
10にも同様の奥書。  
印「東」(朱文)、「宣條」、「天師明経儒」(丙)  
備考 宣賢写『尚書』は各機関に分蔵される  
が、これはそのうちの二冊。



- 08 『尚書抄』〔室町〕写 13冊 13巻 清家文庫1-63/シ/7貴 98069

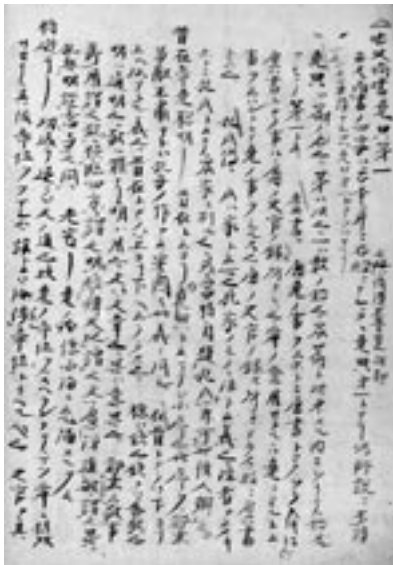
和文16行、経文は大字 四周单边無界

印「宣光之印」(白文)「伏原」(白文)「天師明経儒」(丁)「宗密」(朱文)「大通」(朱文)

- 09 『尚書抄』〔宣賢〕写 2冊 存2巻(巻1・2) 清家文庫1-63/シ/8貴 107454

和文17行 無辺無界

印「宣光之印」(白文)「清原」(白文)「天師明経儒」(丙)



- 10 『毛詩抄』〔業賢〕写 10冊 20巻 1-63/モ/1貴 74709

和文14行 無辺無界

第2冊末に「天文八年四月十日」の墨書

印「伏原蔵書」(白文)「天師明経儒」(丙)「宣光之印」(白文)「宗密」(朱文)「大通」(朱文)

- 11 『詩経抄』(『毛詩聴塵』) 宣賢〔・業賢〕写 11冊 20巻 清家文庫1-63/シ/6貴(第1冊 168508、他は98068)

和文17-22行 無辺無界

第5冊末に「侍従三位清原宣賢私抄之(花押)」と墨書(宣賢)

印「伏原」(白文)「鈴鹿氏」(朱文)「宣條」(朱文)「青云器」(白文)

備考 第1冊は久原房之助氏寄贈本。第1冊内題は「毛詩聴塵」。

- 12 『礼記抄』 宣賢写 1冊 存1巻(巻1) 清家文庫1-64/ラ/2貴 64445

和文17行 無辺無界

巻末奥書「清三位入道宗尤抄之(花押)」(宣賢)

- 13 『月令抄』〔室町〕写 2冊 清家文庫1-64/ケ/2貴 64446

和文12行 無辺無界

印「大通」(白文)「宗密」(朱文)

内題「礼記巻第五」下に「享禄四年壬五月環翠軒宗尤抄之」と墨書。

- 14 『春秋経伝集解』〔南北朝時代〕刊、及び宣賢〔・業賢〕写 20冊 存20巻(巻11-30) 清家文庫1-65/シ/7貴 87671

経伝集解とその抄物を交互に配した書物。経伝集解は、刊本と宣賢写本とを併せたもの。8行17字 四周单边有界。抄物は宣賢・業賢写、22行 無辺無界。

第11冊奥書「永正十二年二月廿二日、於燈下以唐本書写之、即以宝寿院/殿〔常宗〕御白点終朱墨点了/少納言清原朝臣(花押)」「永正十四年七月 日、親王御方御読書参之/八月十一日申終了/宣賢」「大永元年九月四日於 禁中竹園講尺申了/同十二日同十七日同廿一日、四ヶ度申了」(宣賢)。以下、各冊に同様の奥書。

印「宣條」(白文)「天師明経儒」(丙)



- 15 『春秋左伝抄』 宣賢写 4冊 存4巻(巻17,18,21,27) 清家文庫1-65/シ/5 貴 98064

16行以下不等 巻17,18は四周単辺無界、巻21,27は無辺無界

第1冊首に「環翠軒宗尤私抄之」と墨書(宣賢)、印「伏原」(白文)、「船橋蔵書」(朱)

備考 『左伝聴塵』12冊(宣賢写、944923、清家文庫1-65/サ/1 貴)の僚巻である。

- 16 『大学』朱熹章句〔室町末〕写 1冊 1巻 清家文庫1-66/タ/7 貴 98067

7行14字 注双行 四周単辺有界

本奥書「此本加一見朱墨両点無相違頗可謂証本矣 / 文龜第三卯月初十 清原入道常益桑門隠徒判 / 借請清給事中宣賢本令書写同点之今日終功畢 / 永正二年五月十九日 左大史小槻宿祢判 / 以故入道証明之点本被遂其功訖寔為後葉龜鏡而已 / 給事中宣賢判」。

印「宣光之印」、「天師明經儒」(乙)、「戊」  
「宣光」

備考 下に見える18『中庸』及び19『論語』と同じ人物による写本。

- 17 『中庸』朱熹章句〔枝賢〕写 1冊 1巻 清家文庫1-66/チ/4 貴 64450

7行15字 四周単辺有界

奥書「僧俗学徒関東学士十三經訓点清濁悉背先儒之説 / 且失師家之伝悲哉予憐子孫赴邪路一字不闕点之亦 / 清濁字声指之為令読易不依仮名使是亦一之術也可 / 深秘而已 侍従三位清原朝臣(花押)〔俗名宣賢法名宗尤 / 号環翠軒〕(宣賢)。

印「船橋蔵書」



- 18 『中庸』朱熹章句〔室町末〕写 1冊 1巻 清家文庫1-66/チ/6 貴 98070

8行16字 注双行 無辺無界

本奥書「永正八年六月廿日以唐本遂書写之功同加朱墨訖 / 加点以証本校合了 少納言清原朝臣 在判 / 宣賢一〔大内被官 / 飯田将監発起〕一〔南禅寺林首座 / 発起 大永五〕一〔享禄三 於能州 / 畠山左衛門佐義総亭〕一〔於禁中講九ヶ度 / 天文十四十一十三始廿九終〕 / 一〔於親王御方講 / 天文十四十一始廿八終〕一〔於越前国一乗谷講天文十五正廿七始之 / 二月八日終九ヶ度〕一〔於越州一乗谷安養寺講天文十七 / 三十一始之五月十九日終九ヶ度〕 / 枝賢一〔弘治二二月於摂州芥川城 / 松永弾正忠久秀発起〕」。

印「宣光」、「天師明經儒」(戊)、「伏原」(方形、朱文、重郭)

- 19 『論語』何晏集解〔室町末〕写 2冊 10巻 清家文庫1-66/口/9 貴 64448

7行14字 注双行 四周単辺有界

第1巻本奥書「永正九年正月十五日以累家秘本書写之即加朱墨訖 / 少納言清原朝臣判(下略)」。各巻末に同様の本奥書。第2冊末に「正二位清原宣條 / 正二位清原宣光 / 当家古本代々以此家本御読書之時 / 朱墨之点可然云々他覽他借堅用 / 捨之事」の墨書。

印「宣光」、「伏原」(白文)、「天師明經儒」(戊)、「伏原」(方形、朱文、重郭)



- 20 『論語』何晏集解無注本〔室町末〕写 1冊  
10巻 清家文庫1-66/口/7頁 64449

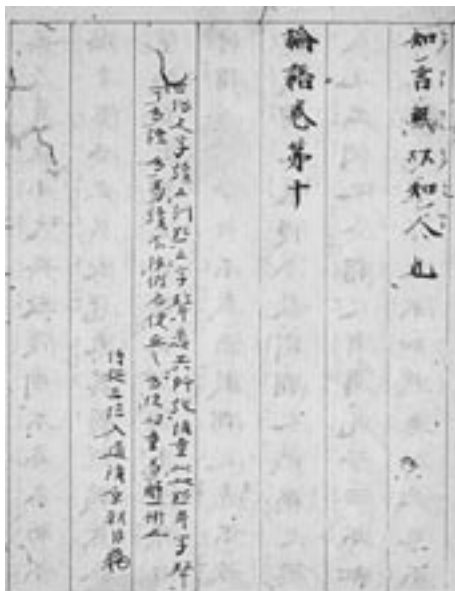
8行16字 四周単辺無界

印「宣光」,「天師明經儒」(戊)

- 21 『論語』何晏集解無注本〔枝賢〕写 1冊 存5  
巻(巻6-10) 清家文庫1-66/口/8頁 64451

7行15字 四周単辺有界

第10巻奥書「世俗文字読云訓点云字声悉失師説後葉以此点并字声 / 可為証為易読不依仮名使点之為使幼童易解一術也 / 侍従三位入道清原朝臣(花押)」(宣賢)。見返しに「子孫為可惑文字読清濁一字不闕点之同指声者也 / 清三位入道宗尤(花押) / 置字大略不読之当読之置字点之」の墨書(宣賢)。



- 22 『論語義疏』皇侃撰〔近世初期〕写 9冊 存9  
巻(巻4欠) 清家文庫1-66/口/8頁 64444

8行20字 注双行 無辺無界

印「宣條」,「天師明經儒」(丙)

- 23 『孟子』趙岐注 永正年間、宣賢写 7冊 14巻  
清家文庫1-66/毛/2頁 87673

7行14字 注双行 四周単辺有界

巻1奥書「以摺本書写之加朱墨訖 少納言清原(花押) / 永正十三年十月十七日於 親王御方講尺申了 宣賢 / 同廿一日 同廿七日三ヶ度申了 / 享祿三年 於登州畠山左衛門佐

義總亭講之 / 享祿五年七月十一日十二日十三日於若州小浜栖雲寺〔玉首座 / 竹田舎弟〕講之 / 天文十五年四月 於越前国一乗谷講之三ヶ度」(宣賢)。以下、各巻に同様の奥書。第7冊末に「孟子篇叙」を載せ「御奥如斯 / 孟子篇叙人之本無之仍先達等未加點又不読之余至徳三歳講談之次以僻案 / 加點本經点多以違義理之間又以改正之而已 / 蔵氷軒文翁良〔賢〕 / 嘉吉元年八月廿五日以曾祖父之御説授嫡男主水正兼直講宗〔賢〕此本御奥 / 書如斯可為証本矣 環卒軒言翁業忠」。

印「東」(朱文)「宣條」,「修蘭亭」(長方形、朱文)「伏原」(白文)

- 24 『孟子抄』永正年間、宣賢写 7冊 14巻 清家



文庫1-66/毛/4頁 107449

和文22行 四周単辺有界

第7冊奥書「右侍講席卒書之分不改言辭不飾文章抄之私又加 / 正義大全等師家庭訓須雖無毫釐之差蒙昧不 / 敏定可致千里之隔後葉索隱芟煩不亦宜乎 / 少納言清原宣賢(花押)」(宣賢)。

印「宣條」,「天師明經儒」(丙)「伏原」(白文)

- 25 『古文孝經抄』天正9年、圓宗写 1冊 1巻 清家文庫1-66/口/17頁 64447

和文17-18行、經文は大字 四周単辺無界

尾題下に「清三位入道宗尤判 / 宣幸」の墨書。奥書「天正九仲秋日於石益婦春軒下書写之 / 圓宗(「覚甫」朱印)」。

印「宣幸」「覚甫」(円形、朱文)

- 26 『日本書紀』神代卷(『日本書紀抄』)〔室町末〕写1冊 清家文庫5-05/二/7貴 64453  
和文18行 無辺無界

本文末、本奥書「先年雖令抄出為讓与神祇小副卜部兼右〔愚息丸ノ少名竹鶴丸去年五月六日元〕重加琢磨書之ノ同文字読清濁以朱指声訖ト氏秘説不違背一句於纂ノ疏者私書加為子孫龜鏡輒勿出函底矣ノ大永七年正月卅日終下卷功 侍從三位清原宣賢ノ天文二年三月廿一日於青蓮院講始同五月六日講終〔已上此卷ノ五ヶ度〕ノ環翠軒宗尤」。「從二位清原宣光藏」の墨書。

印「宣光之印」(方形、朱文)、「清原」(方形、朱文)、「明經」(方形、朱文)、「岩神寺ノ蓮乘院」(方形、朱文)

- 27 『職原抄〔抄〕』〔近世初期〕写1冊 清家文庫2-03/シ/2貴 64454

和文12行

卷首に「清三位入道宗尤私抄〔号環翠軒〕ノ此抄八北畠ノ准后親房公ノ作也准后ノ事八南朝二於テノ宣下也ノ当朝二於テハ不可用トイヘトモ今ニ北畠ノ准后ト称シ来レリ是他二異ナル事也」と墨書。本奥書「以講尺之次私抄之了重可書加而已ノ環翠軒宗尤(花押)〔判形ノ如此〕」。

- 28 『令聞書』一條兼良述 一條冬良聞書 元禄11年写1冊 清家文庫2-03/リ/1貴 64456

和文11行

印「宣通之印」(方形、朱文)、「清原氏」(方形、朱文)

卷末に「元禄十一年〔戊寅〕七月廿日ヨリノ廿三日再校合畢也ノ右一冊先考之手ノ沢也(花押)」の墨書。

備考 『続群書類従』所収の『後妙華寺令聞書』と同じく、延徳四年の藤原隆量の本奥書を持つ。

- 29 『和論語』(『秋津真言葉』) 清原良業撰 橘三喜(為証庵)写1冊 清家文庫1-84/ワ/1貴 64458

和文10行内外

卷首「為証庵三喜撰」の墨書。奥書「元禄二〔己巳〕年間正月下旬ノ第卅五代ノ正二位清原宣條謹伝之(花押)」。

印「宣條」(方形、朱文)、「清原」(方形、朱文)、「伏原」(方形、朱文)

古活字版

- 30 『周易』王弼・韓康伯注 慶長10年刊、古活字版1冊 存6巻(巻1-6) 清家文庫1-62/シ/9貴 87672

8行17字 注双行 四周双辺有界

第1冊巻首「寛保辛酉夏以考本加ノヲコト点了宣條」。

印「宣條之章」(方形、朱文)、「清原」(方形、朱文)、「天師明經儒」(丙)、「鹿苑寺」(長方形、黒文)

- 31 『毛詩』毛伝鄭箋 古活字版4冊 20巻 清家文庫1-63/モ/5貴 87677

8行17字 注双行 四周双辺有界

印「榮相」(方形、朱文)、「修蘭亭」(方形、朱文)、「天師明經儒」(甲)、「經賢」(方形、朱文)、「清原」(方形、朱文)、「宣條」(方形、朱文)



- 32 『春秋經伝集解』 古活字版 15冊 30巻 清家文庫1-65/シ/6貴 87674

8行17字 注双行 四周双辺有界

印「伏原」(方形、朱文)、「宣光」(方形、朱文)

- 33 『礼記』鄭玄註 古活字版 10冊 20巻 清家文庫1-64/ラ/3貴 87675

8行18字 注双行 四周双辺有界

第5冊末以下の各冊に、対校本の奥書を写す。  
印「伏原」(白文)

34 『古文孝経』孔安国伝 古活字版 1冊 1巻 清家文庫1-66/コ/16頁 107450

8行17字 注双行 四周双边有界

印「天師明経儒」(戊)、「宣通之印」、「伏原氏」、「天師明経儒」(乙)

35 『論語』何晏集解 古活字版 2冊 10巻 清家文庫1-66/口/10頁 107452

7行17字 注双行 四周双边有界

第1冊末に「家伝以秘本加朱墨 侍従三位宣光」の墨書。

印「宣光之印」、「天師明経儒」(丙)

36 『孟子』趙岐註 古活字版 3冊 存13巻(巻6欠) 清家文庫1-66/モ/3頁 87676

7行17字 注双行 四周双边有界

印「宣條之章」、「天師明経儒」(丙)

37 『中庸』朱熹章句 古活字版 1冊 1巻 清家文庫1-66/チ/5頁 107451

7行17字 注双行 四周双边有界

印「天師明経儒」(戊)、「清原」(白文)

#### 4. その価値

以上、37点の書籍はまことに貴重書の名に恥じぬものであるが、なかでも目を惹くのは、07『尚書』、09『尚書抄』、11『詩経抄』、12『礼記

抄』、14『春秋経伝集解』、15『春秋左伝抄』、23『孟子』、24『孟子抄』と8点も宣賢写本が存することである。舟橋、伏原の両家に伝えられた宣賢の写本が京都大学で集い得たことは、実に喜ばしい。特に『春秋左伝抄』は、従来の清家文庫本『左伝聴塵』(12冊、宣賢写、944923、清家文庫1-65/サ/1頁)とともに同じ一部の本として書かれたものであり、それが別々に蔵されていたのが再会したものである。

また04『易抄』(『百衲襖』) 06『百衲襖』は、いずれも桃源瑞仙の自筆本であり、きわめて貴重である。清家文庫中にはもともと室町時代の易学に関する書物が多いが、03『易学啓蒙通釈抄』などをも含め、ますます充実したものとなった。

それ以外のもので興味深いのは、17『中庸』、21『論語』の2点である。21『論語』を、枝賢(しげかた、1520-1590)写『論語』(重要文化財、清家文庫1-66/口/5頁)との比較を通して、枝賢の写本であることを知った。17と21は同一人物による写本なので、これらは枝賢の手になることになる。この両書に対して、宣賢が奥書を加えているのであるが、枝賢は宣賢の嫡孫に当たる。宣賢が何を思いながら奥書したのか、後人の空想を喚起する本である。

(こがち りゅういち)

## 医学部図書館が騒々しいのは

医学部5回生 中 坊 周一郎

昨今は医学界も改革の時代ということなのだろうか、これから医師になる私たちの人生に大きく関わってくる変革の波が押し寄せてきた。「研修医の必須化」である。実は今までは研修医というのは法的に定められた身分ではなく、個々の病院が自発的に、あるいは必要に応じて新卒の医師を研修医として職業訓練していたのだが、今回の改革で必須化されることになり、全ての医師は医師国家試験合格後、定められた2年間の研修ローテーションをまわらなければならないようになったのだ。その2年の間、我々は数ヶ月刻みで各科に「体験入学」することとなる。まあ単純に考えて、半人前として気楽に過ごせる時間が2年長くなって、しかも研修医の2年間も国家に保証された一定量の給料までいただける、ということで我々学生としては願ったりかなったりの新制度でもある。

ところが、この制度の導入は、そういいことばかりでもない。今までは卒後は京大病院やその関連病院を中心としてほぼ希望どおりの病院に入ることが出来たが、これからは病院ごとに試験による選抜があるというのである。しかもその採用試験はおしなべて卒業前の7・8月頃に行なわれるというのだ。いままでは我々学生は卒業後の3月に行なわれる医師国家試験に合格することだけを考え、「その後はその後」というようなのんびりした勉強の仕方をしていたし、京都大学のカリキュラムもそのように組まれている。しかし、それではとうてい間に合わない事態になったのである。それどころか、この採用試験は相手より1点でも2点でも上をとらなくてはならない仁義無き相対評価型の試験だ。一定点取れば合格、という絶対評価型の医師国家試験とはわけが違う。そんな試験で、我々より半年も早くカリキュラムを完了しその

分だけ勉強のすすんでいる他大学の学生と戦わなくてはならないのである。そういうことを今年の4月になってはじめて知らされ、「さあ大変、急いで勉強を進めなければ！」というわけで、5・6回生が勉強すべく図書館に殺到した。

図書館で勉強、というと孤独にコツコツ自習するイメージがあると思うが、医学生は単に自習するだけではなく「勉強会」というものを何人かで開いて勉強する風習がある。知識の偏りを無くすることが医師国家試験合格に必要なからだそう。そんなニーズにあわせて医学部図書館には「グループ学習室」というものがあり、特に最近はいつも誰かがそこで勉強会を開いている。しかしこのグループ学習室、防音対策が全くなされておらず、中で談論風発する学生の声が本来静謐であるべき図書館に騒音として飛び散ることになってしまっている。

これでは一般の利用者はたまったものではないだろう。私などは騒音を発する方にまわることもあるので、普通に図書館で自習していて気分を害することは無いが、調べものをしに来た方など非常に迷惑に思われるのではないだろうか。

図書館の方々が色々なニーズに柔軟に対応してくださっているのを見るにつけても、いずれはこれも解消されると思うが、何しろ設備面の問題なのですぐにはどうしようもない。さりとて我々学生にしても、声をひそめてやるのでは勉強会をする意味が無いのである。

図々しくはあるが、一般の利用者の方々におかれては「学生たちの慌てておることよ」と一笑に付しつつ大目に見ていただけないだろうか。不意打ちを食らってあせっている学生からのお願いである。

(なかぼう しゅういちろう)



## NIIメタデータ・データベースの概要と京都大学での取り組み

### 情報管理課電子情報掛

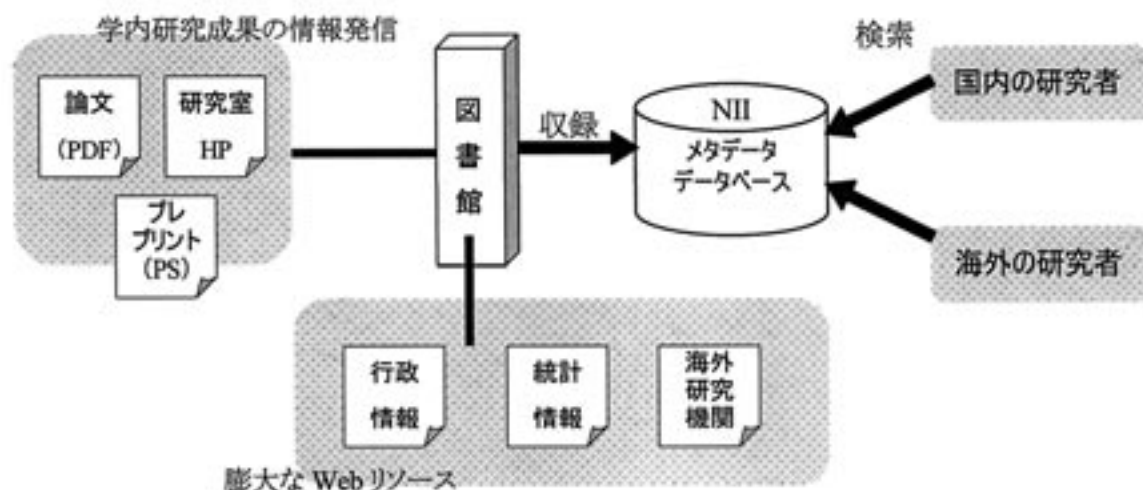
#### 1. メタデータ・データベースとは

メタデータ・データベースは、インターネット上に公開・掲載されている学術情報・研究資源（ホームページ・論文のPDF・データファイルなど）を、効率的に検索・収集するためのシステムです。冊子体の図書や雑誌を探すための目録・OPACと同じように、インターネット上のデジタル資料についても"目録"を作成し、データベースとして構築しよう、というものです。そのようなWeb上のデジタル資料についての目録情報を、ここでは"メタデータ"と呼んでいます。

NIIで構築されているメタデータ・データベースでは、主に大学・研究機関によるアカデミックな内容の情報・資源に特化しています。収録対象は、大学・研究機関の研究者が自ら発信・公開しているデジタル資料、及び、それ以外のさまざまな機関・団体が公開している学術的な

デジタル資料の2種類です。それら研究成果物についてのメタデータは、図書館員によって分析・作成され、そのタイトル・発信者・URLなどがデータベースに格納されます。アカデミックな主題に特化しているため、YahooやGoogleなどの一般的なWebサービスのように、商業・娯楽といった雑多な情報がノイズとして混在してしまうことはありません。また、情報整理を専門とする図書館職員が資料を吟味し、メタデータを作成することによって、適切な分類・件名・キーワードや内容解説などが付与されます。

国内大学・研究機関における研究成果の円滑なる流通、広く世界への情報発信に寄与できるよう、また、研究者・学生のみなさんにとってより探しやすい実用的なデータベースとなることを目指しています。現在200近い大学・機関がこのシステムに参加しており、入力作業をすすめているところです。

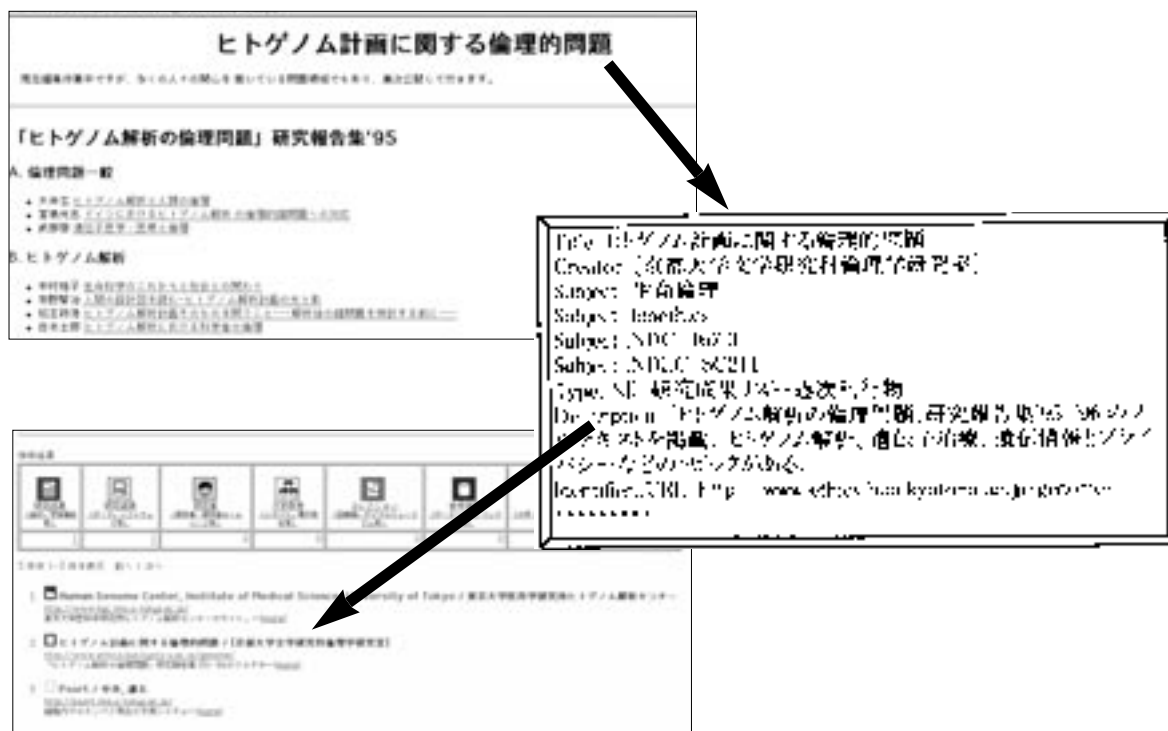




## 2. 情報資源とメタデータ

メタデータの内容は、ダブリン・コア（インターネット上のデジタル資料を記述するために、15項目の基本的な記述要素が定められている）に準拠し、かつ、NIIメタデータ・データベース用のルールが付加されています。例えば、資料

タイプを独自に規定し、そのデジタル資料が論文なのか、データベースなのか、研究者のホームページなのかを判別・絞込みできるようにしています。またNDC（日本十進分類表）を必須とし、学問分野による分類を付加しています。



「大学Webサイト資源検索」試験公開版 <http://ju.nii.ac.jp/>

## 3. 京都大学における取り組み

附属図書館電子情報掛では「学内研究成果」というリンク集のかたちで、研究成果物の情報発信を実現しています。これに加え、このNIIメタデータ・データベースにも構想段階から関わり、方針作成・システム構築などに貢献してきました。平成14年の試行期間中には400件余りの京都大学学内の資源についてメタデータを入力していますが、まだ網羅的なものではありません。

附属図書館電子情報掛によるデータ入力は今も継続作業中ですが、京都大学学内全体をカバーするには、今後も相応の労力と時間を要します。学内研究成果物の網羅的な収集と効果的

な情報発信には、各部局図書室の御協力、及び先生方・研究室の皆様からの積極的な情報提供が欠かせません。インターネットを介しての情報発信をよりスムーズにするため、学内で成果をあげている研究実績を広く世界的にアピールするため、全学的な御協力を是非よろしくお願い致します。

- ・ 検索サービス「大学Webサイト資源検索」試験公開版 <http://ju.nii.ac.jp/>
- ・ メタデータ・データベース共同構築事業 <http://www.nii.ac.jp/metadata/>
- ・ 京都大学電子図書館 学内研究成果 <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/seikaindex.html>

# オンラインで7,000タイトル 電子ジャーナルへの誘い<sup>いざな</sup>

## 情報サービス課参考調査掛

電子ジャーナルとは、論文をデジタル化し、Web上で読めるようにした雑誌です。電子ジャーナルは、冊子体（紙に印刷された形態）の雑誌と比較して

24時間いつでも研究室の端末等から印刷・ダウンロードができる

速報性がある（ジャーナルによっては、出版前の論文が見られるものもある）

ハイパーリンクで参考文献の参照等が容易  
全文検索ができる場合もある

等のメリットがあり、今や学術研究には必要不可欠な存在となっています。

現在、京都大学では、およそ7,000タイトルの電子ジャーナルを利用することができます。以下で、利用にあたって知っておくと便利な事柄をご紹介します。

### 1．電子ジャーナルが使える環境

電子ジャーナルは、無料で提供されているも

のもありますが、ほとんどは出版社と契約をして利用可能になっています。契約により提供されている電子ジャーナルは、利用資格があるかどうかの認証を経る必要があります。多くはIPアドレス（各端末に割り振られた番号）に基づいて、それが京都大学内の端末であることを認証する方法を取っています。現在、通常、契約上認められているIPアドレスは【130.54.\*\*】（吉田地区）、【133.33.\*\*】（宇治地区）です。学外の端末からはほとんどの電子ジャーナルは利用できませんのでご注意ください。

### 2．電子ジャーナル利用の入り口

次に、京都大学で電子ジャーナルを利用するときの入り口をいくつかご紹介します。


(1) 京都大学電子図書館学内向けサービス「電子ジャーナル」ページから

(<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/lusr/gakunaiej.html>)



上記ページの「電子ジャーナル一覧」では、アルファベット順リスト、分野別リスト、出版社別一覧（全ての出版社ではない）を用意しています。この電子ジャーナルページでは他にも、新規追加やトラブル情報など、電子ジャーナルに関する最新のニュースを提供しています。

#### (2) 京都大学OPACの検索結果から

京都大学OPAC（<http://kensaku.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/>）の検索結果（書誌詳細表示）に、 というボタンがあれば、それが電子ジャーナルへのリンクです。ただし、OPACで検索できるのは京大で利用できる電子ジャーナルの一部分のみで、全てを検索することはできません。OPACで電子ジャーナルが見つからなくても、上記「電子ジャーナル一覧」で必ず確認してください。

#### (3) データベース検索結果から

Web of Science、SwetScan、ERL（BA、MEDLINE、PsycINFO、GeoRef、Zoological Record、ERIC）、PubMed（京大専用入り口）、SciFinder Scholar等、学内で利用可能なデータベースには、電子ジャーナルへのリンク機能をもつものがあります。「Online Journal」「View Full Text」等のリンクやボタンが目印になります。ただし、このリンクがなくても電子ジャーナルで利用できる場合もありますので、やはり、上記電子ジャーナル一覧を確認してください。

### 3. 電子ジャーナルからデータベースへの多彩なリンク機能

電子ジャーナルのフルテキストの表示形式には、PDF形式とHTML形式があります。PDF形式は印刷イメージですが、HTML形式はブラウザから参照することができ、参考文献からは下記のようなリンク機能が利用できる場合があります。

(1) PubMed（MEDLINE）などの他の文献情報データベースにリンクされていて、アブストラクト等が参照できます。

(2) 「ISI」という表示がある場合、Web of

Science とリンクされていて、アブストラクトや、その雑誌のインパクトファクター、当該論文が他の論文に引用された状況等を参照することができます。（Web of Scienceを参照した場合は必ず画面右上のLogoutボタンをクリックしてください！）

#### (3) 他の電子ジャーナルへのリンク

##### ・フルテキストへのリンク

「Full Text」「CrossRef」「Chemport」「PubMed」等へのリンクから、無料の電子ジャーナル、及び京都大学が契約している電子ジャーナルのフルテキストが参照できます。

・当該論文を引用している他の論文のフルテキストへのリンク

### 4. 電子ジャーナル利用のルール

電子ジャーナルの利用にあたっては、供給元である出版社が使用許諾条件を定めています。どの出版社においてもおおむね以下の事項は禁止されています。

- (1) 一括してのダウンロード
- (2) 個人利用以外の利用
- (3) 複製や再配布

条件に違反した場合、大学全体の一定期間利用停止等のペナルティが科せられる場合があります。

たとえば、AIP（American Institute of Physics）の電子ジャーナルは、平成14年度一年間で計4回利用停止になりました。その原因として、研究会で論文を比較するために250件程度の論文を一度にダウンロードした、という例がありました。利用者自身が利用停止になるような使い方であるとは思わなかった、というケースもあるようです。

電子ジャーナルの利用にあたっては、上記ルールを遵守するよう、あらためてお願いします。各研究室の先生方は、学生・研究生のみなさんへのルールの周知を徹底していただくよう、よろしくお願い致します。

## 霊長類研究所図書室紹介

霊長類研究所図書室 高 井 一 恵

霊長類研究所図書室は、愛知県犬山市にある遠隔地図書室です。霊長類研究所開所の翌年1968年に本棟5階に開室し、1977年に現在の場所である3階に移転しました。図書室西側の非常口からは犬山城や木曽川を望め、南の窓からは犬山市街を見晴らせます。よく晴れた日には25キロほど離れたJR名古屋駅のツインタワーも見ることができます。

図書室資料は「霊長類学に関する文献を網羅する」という方針に基づき収集されています。「霊長類学」という単独の分野があるわけではないため、動物学・生物学のみならず、心理学・人類学・古生物学・医学・薬学・農学など、収集分野は多岐に渡ります。

所蔵資料の中で最も特色のあるものは霊長類学関連の別刷コレクションです。25年余り前から非常勤職員1名が専任で業務に当たり、著者に直接論文の寄贈を依頼して収集してきた文献です。別刷収集の経緯・方法については「静情」Vol.25 No.3(1988年)に述べられていますので、詳しくはそちらをご参照下さい。別刷の届かない日は一日も無く、年に4千件程度の増加で現在は10万件を越す数になりました。1995年には別刷保管のために「文献資料室」を増設しましたが、そこも既に9割ほど埋まっています。世界各国の研究者の方々にいつも快くご寄贈いただいているおかげです。

ここ数年で大きく変わったのは、このコレクションを検索するための「霊長類学文献索引データベース」を作成した点です。別刷の数が膨大になっても、検索には初期の頃のまま、目録カードで第一著者名から探すしか方法がありませんでした。1995年になってようやく、新しく受け入れる分についてはその都度書誌情報を入



力し、少しでもコンピュータ検索できるようにしていくことが決定されました。しかし既に所蔵している何万件もの文献の入力の目途は全く立っていませんでしたが、幸いにも1997年から1999年にかけてデータベース作成のための科学研究費補助金を取得でき、過去の収集分も一気に入力することができました。年代によっては様式の不統一もあり、また、キーワード検索も不備であるなどデータベースとしてはまだまだ多くの問題を抱えていますが、この4月からは新たなシステムも導入して、検索・更新作業ともに使いやすいものに改良しつつあります。別刷コレクションの所蔵検索システムというだけでなく、いずれは霊長類学文献全般のレファレンスツールとしても役立てられるものにしていきたいと願っています。

「霊長類学文献索引データベース」には霊長類研究所内からならどこからでも24時間自由にアクセスでき、所外に向けては国立情報学研究所のNACSIS-IRで公開しています。近いうちに霊長類研究所のホームページでも公開する予定です。

残念ながら別刷コレクションの複写依頼には応じられませんが、閲覧は予め図書室にご連絡いただければどなたでも可能です。なお、通常



の図書・雑誌については学内外からの複写を受け付けています。京都大学所属の方に限っては、所属の図書室宛に郵送での図書貸出も行っていますので、所属図書室を通じてお申込み下さい。

京都地区から離れた小さな図書室ですが、機会があればどうぞご利用下さい。

(たかい かずえ)



閲覧室風景



別刷キャビネットと徳田文庫

撮影：木下 實



## 蔵書統計（平成15年3月31日現在）

部 局	受入冊数			蔵書冊数			入力冊数		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
附属図書館	9,124	1,214	10,338	580,006	276,054	856,060	299,936	82,322	382,258
附属図書館宇治分館	181	331	512	25192	80763	105955	9,792	25,814	35,606
総合人間学部	5,095	3,769	8,864	325,658	276,669	602,327	104,655	76,597	181,252
文学部	10,260	6,608	16,868	530,292	359,127	889,419	101,897	115,320	217,217
教育学部	2,027	944	2,971	82,323	60,824	143,147	31,760	19,524	51,284
高等教育教授システム開発センター	194	35	229	1,997	889	2,886	0	0	0
法学部	9,663	5,374	15,037	262,941	351,752	614,693	60,139	70,211	130,350
経済学部	4,312	3,156	7,468	238,350	226,000	464,350	73,396	59,717	133,113
理学部	526	1042	1568	48595	201955	250550	20,643	74,998	95,641
医学部	522	1,860	2,382	51,424	142,844	194,268	7,573	4,320	11,893
薬学部	117	550	667	12,277	34,413	46,690	3,839	4,881	8,720
工学部	1222	1731	2953	130476	207231	337707	56,584	37,597	94,181
エネルギー科学研究科	185	60	245	3,516	4,081	7,597	1,787	1,051	2,838
情報学研究科	832	944	1,776	12,736	54,710	67,446	8,100	22,369	30,469
農学部	975	791	1,766	172,535	154,381	326,916	19,422	8,773	28,195
農学部附属農場	0	0	0	586	113	699	6	32	38
農学部演習林	88	101	189	10,012	3,066	13,078	3,240	942	4,182
生命科学研究科	23	3	26	23	3	26	0	0	0
人文科学研究所	5,048	1,130	6,178	447,638	75,620	523,258	48,855	19,186	68,041
再生医科学研究所	0	0	0	1,825	5,639	7,464	161	265	426
ウイルス研究所	0	0	0	484	10,077	10,561	113	1,202	1,315
基礎物理学研究所	171	1,222	1,393	8,426	69,088	77,514	5,348	34,234	39,582
経済研究所	485	332	817	41,012	34,002	75,014	7,407	15,464	22,871
原子炉実験所	33	80	113	12,526	33,626	46,152	4,861	5,694	10,555
数理解析研究所	37	800	837	6,514	71,310	77,824	4,508	34,685	39,193
霊長類研究所	135	444	579	6,602	14,415	21,017	4,840	4,470	9,310
東南アジア研究センター	895	14,334	15,229	23,474	111,930	135,404	16,277	57,509	73,786
学術情報メディアセンター	244	154	398	6,117	13,121	19,238	4,891	7,719	12,610
環境保全センター	0	42	42	618	1,203	1,821	250	1,183	1,433
放射線生物研究センター	0	5	5	405	1,821	2,226	213	121	334
医療技術短期大学部	215	65	280	24,829	5,812	30,641	6,390	1,430	7,820
生態学研究センター	15	546	561	2,239	5,513	7,752	970	1,881	2,851
人間・環境学研究科	259	409	668	5,578	11,811	17,389	4,797	9,614	14,411
アジア・アフリカ地域研究研究科	433	8,429	8,862	10,297	71,043	81,340	8,046	67,894	75,940
そ の 他	0	0	0	1410	139	1549	0	0	0
合 計	53,316	56,505	109,821	3,088,933	2,971,045	6,059,978	920,696	867,019	1,787,715

## 教官著作寄贈図書一覧（平成15年3月～4月）

所属等	寄贈者氏名	寄贈図書名	出版社	出版年
名誉教授	石原 潤	農村問題と地域計画	古今書院	1992
名誉教授	石原 潤	定期市の研究	名古屋大学出版会	1987
名誉教授	石原 潤	農村空間の研究 上・下	大明堂発行	2003
名誉教授	大野 英二	比較社会史への道	未来社	2002
名誉教授	志田 忠正	化学結合（岩波講座現代化学への入門）	岩波書店	2001
名誉教授	祖田 修	着土の世界	家の光協会	2003
名誉教授	祖田 修	ドイツ心の旅	金星舎	2003
名誉教授	祖田 修	祖田修教授業績目録 定年退官記念	金星舎	2003
名誉教授	祖田 修	持続的農業農村の展望	大明堂	2003
名誉教授	日沼 頼夫	ウイルスと人類	勉誠出版	2002
名誉教授	日沼 頼夫	ウイルスはどこにでもいる	勉誠出版	2002
文学研究科	紀平 英作	帝国と市民	山川出版社	2003
人間・環境学研究科	福井 勝義	アフリカの民族と社会（世界の歴史 24）	中央公論社	1999
人間・環境学研究科	福井 勝義	近所づきあいの風景（講座人間と環境 8）	昭和堂	2000
人間・環境学研究科	福井 勝義	戦いの進化と国家の生成 （人類にとって戦いとは 1）	東洋書林	1999
人間・環境学研究科	福井 勝義	攻撃と防衛の軌跡 （人類にとって戦いとは 4）	東洋書林	2002
人間・環境学研究科	福井 勝義	イデオロギーの文化装置 （人類にとって戦いとは 5）	東洋書林	2002
地球環境学堂	横山 俊夫	前近代久米島文化の復元	京都大学人文科学研究所	2002
地球環境学堂	横山 俊夫	前近代久米島文化の復元 上江洲家・與世 永家・吉濱家・宮城家文書目録	京都大学人文科学研究所	2002
人文科学研究所	富谷 至	邊境出土木簡の研究	朋友書店	2003

## シネマ・クラシック

### 上映作品

### 日時

スリ（1960 仏）	6月5日（木）14：00～15：15 15：30～16：45
アパッチ砦（1948 アメリカ）	7月3日（木）14：00～16：10 16：30～17：40
森は生きている（1956 ソ連）	8月7日（木）14：00～14：50 15：30～16：20
橋（1959 ドイツ）	9月4日（木）14：00～15：40 16：00～17：40
アイアンホース（1924 アメリカ）	10月2日（木）14：00～16：00 16：30～18：30
シベリヤ物語（1947 ソ連）	11月6日（木）14：00～15：55 16：30～18：25
素晴らしき哉、人生（1946 アメリカ）	12月4日（木）14：00～16：10 16：30～18：40

上映場所：附属図書館3階AVホール

[illegible]

平成15年

- 3月5日 国立7大学新旧図書館長懇談会（於：東大）  
第1回N I I 国際シンポジウム（於：国際連合大学）  
6日 法人格取得問題に関する附属図書館長懇談会（於：東大）  
10日 職員研修WG  
12日 研究開発室室員講話会（文学研究科木田教授）  
26日 平成14年度第7回商議会  
図書系事務連絡会議  
27日 カプール大学薬学部長来館  
28日 平成14年度京都大学附属図書館第4回講演会
- 4月4日 課題解決プロジェクト・チーム会議（於：京大）  
7日 新入生附属図書館オリエンテーション（～11日）  
11日 「情報探索入門」授業開始（～7月11日）  
18日 平成15年度第1回静脛編集委員会  
目録システム地域講習会講師資格者打合せ  
21日 資産管理DB検討WG  
台湾故宫博物館関係者来館  
23日 近畿地区国立大学図書館協議会総会  
近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会

## 目次

これからの附属図書館	新たな時代を迎えて	1
平成15年度企画展「和算」		2
新しくなった清家文庫		3
医学部図書館が騒々しいのは		11
NIIメタデータ・データベースの概要と京都大学での取り組み		12
オンラインで7,000タイトル	電子ジャーナルへの誘い	14
霊長類研究所図書室紹介		16
蔵書統計		18
教官著作寄贈図書一覧／シネマ・クラシック		19
図書館の動き		20

## 編集後記

新年度の慌しさも少し落ちつき、新入生も京大の風に馴染んできたところでしょうか。附属図書館だけでなく学内の図書館への注文もどしどし出していただいて、学習・研究活動に役立つ図書館としなければなりません。また図書館活動をみなさまにもっと知ってもらいたいと考え、広報活動を見直すことに取り組み始めています。静脩がお役に立つことを願っています。附属図書館のホームページもご覧ください。( <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp> )( C )